富士市SDGsの課題と取り組み

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標 9

レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

富士市の課題

富士市は、古くから富士市域の豊かな地下水等を利用して、江戸時代は紙すきで和紙を作っていた時代、そして明治時代になり洋紙生産が機械化されてからも、「紙のまち」として製紙産業が発展してきました。紙の一大消費地である首都圏からの距離が近く、古紙を原料とした再生紙工場が多く発展を遂げてきました。また、田子の浦港の築造や東名高速道路の開通などを契機に、交通の利便性の良さから輸送機器産業や化学工業、薬品等の企業が進出し、県内有数の「ものづくりのまち」として発展してきました。しかし、少子高齢化の進行に伴う経済規模の縮小や産業構造の変革、新型コロナウイルス感染症拡大によるデジタル化の進展、地球環境問題に対応した脱炭素化への転換など、様々な外的要因により、これらの産業は大変革期を迎えています。富士市が、今後も持続的なものづくりのまちであるために、既存産業の活性化や進化を促し、新産業の創出や高付加価値の製品開発等による足腰の強い産業基盤を構築していく必要があります。

製紙工場の外観

セルロースナノファイバーの作り方

富士市の取り組み

富士市では、植物由来で環境にやさしく、基幹産業である紙・パルプ産業と関連の深い、セルロースナノファイバー（CNF）という新素材に着目し、その実用化促進に向けた取り組みを展開しています。CNFは国の研究機関や大学等により研究開発が進められていますが、価格が高いことやまだまだ不透明な部分も多く、取り組むことに二の足を踏む企業が多いため、富士市が積極的な支援を行っています。平成31年にCNF関連産業の集積を図るための「富士市CNF関連産業推進構想」を策定し、目指すべき将来像と将来像を実現するための方針を定めました。その後、推進構想に基づくCNF関連産業の創出・集積に向けた取り組みとして、令和元年にはCNFの用途開発を加速するための産業界・大学・金融機関・官公庁がつながる場となる「富士市CNFプラットフォーム」を設立し、令和4年には研究開発を加速させる「富士市CNF連携拠点」を静岡県との連携により開設し、CNF研究の第一人者である磯貝明東京大学特別教授を招聘しました。その他にも、「F CNFブランド」を立ち上げ、富士市が製品価値を認定し、情報発信や販路開拓などを支援しています。

富士工業技術支援センター センター長

櫻川 智史

富士工業技術支援センターは、静岡県が地域産業を技術面で支援するために県内に設置している研究所の一つで、製紙やCNFに特化した研究を行っています。富士市工業振興会議や富士市CNF関連産業推進懇話会、各種補助金審査会などの委員として、行政や企業活動などについて、助言しています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中

富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS